

## 来賓2人のご挨拶 (要旨)



●NPO協働ネット土田博代表 私どもと市民大学同窓会には強い絆があります。今年から協賛講座のパソコンの初級・中級を同窓会にお願いしたのを始め、他にもいろいろご尽力をいただいております。これから連携を図りながらタックを組み、お互いの信頼関係を基に、より一層のご協力をお願いしたいと思います。

●嵯峨座晴夫同窓会名誉顧問 同窓会の方々が多方面で活躍されておられる様子を会報などで知りとても喜ばしく、頼もしくも思っております。本日は市議会最終日で市長・議長・行政の方々が参加されておらず残念に思います。こういう場にこそ参加していただき、皆様と交流していただいた方が良かったのではないかと思います。



### ■退任挨拶 諸井寿夫会長

2年前の3月に松倉会長の突然の逝去にともないその代行を4カ月務め、6月のSSCC同窓会の発展的解消とさやま市民大学同窓会の発足で会長に就任し、2年間を全うすることができました。

これもひとえに会員の皆様のご支援があつてのことと感謝を申し上げます。

この間、特に印象にあるのは認知症予防講演会の成功でした。またこの4月からはSSVCが中心となって市の事業の「茶レンジスクール」がスタートしています。これからは中嶋新体制のもとに一

会長就任  
挨拶

## 「公益的な性格」を持つ事業の展開



### 『同窓会って何をしている会なの？』 との疑念の払拭を

SSCCがスタートしたのは2000年(平成12)の9月でしたが、その2年後に修了生の有志で同窓会が立ち上がりました。その後、2014年には元気大学と統合してさやま市民大学となり、今年で3期目に入っています。

同窓会はこの14年間に渡り会員の皆さまのご支援でつつがなく存続してこられました。そして今日、私はその4代目の会長に就任いたしました。この重責をさらに発展させ、微力ながら任務を遂行していく所存です。

同窓会会則の第4条にはその目的の1つに、「習得した学びの成果を地域社会に寄与する」とあります。私に与えられた役割は、この目的を達成するための取り組みをどう遣り遂げるかです。

そのためには、同窓会の存在が市民の皆さまから認知されるとともに、期待を持たれ、評価をいただけるかにかかっており、その検証も欠かすことはできません。

現在、同窓会は「活動支援部会」と「クラブ活動部会」の2つの部会で構成され、所属する活動は多岐に渡っております。その陣容をみますと、多彩な知識や経験を持ち合わされた人たちが多く、地域社会に貢献するための協働事業にも日々精進しておられるのです。

同窓会は現在、約590人の会員で構成していますが、先達が成し遂げてきた活動を継承しつつ、この先は更なる社会貢献事業の進路を模索し、それに勤しんでいく所存です。そしてまた、「狭山市にとって特別な団体である」と市民の皆さまから一目置かれ、行政の方々にも認識していただくことが、私に課せられた使命との思いでいっぱいです。そして、同窓会の活動は今まで以上に「公益的な性格」を持つ事業を展開していくことこそが、必須条件であると信じています。

「活動支援部会」は公共性のきわめて強い社会事業であり、公益的的事业と認識できるものです。また、14ある「クラブ活動部会」は、例えば「生きがい学科の会」は今年3月に市の長寿健康部と共催して「認知症予防講座」を開催しましたが、これには多くの市民が参加され好評を博しました。このように、どこもが積極的な活動を展開しているのです。

しかしながら、各クラブ活動の現場では、一部の方々からの評価はいただけても、大方の市民の皆さまの認知は希薄で、「同窓会って何をしている会なの」との声が多く聞かれるのも事実です。

この現状を払拭するためには、会員の皆さまが実践して結果を残してこられた成果を、市民の皆さまに認識していただくために、『さやま市民大学同窓会 ―社会活動事例報告書』（仮題）を発行することにいたしました。具体的には活動支援の3団体の事業実績を掲載し、クラブ活動は14クラブの活動実践や計画を合わせて記載いたします。今年度中に発行し、市内の公民館など公共施設に配布して、市民の皆さまや行政の方々に目を通していただこうと思っています。

これから先は、市民部協働自治推進課やさやま市民大学、更にはNPOさやま協働ネットとの連携を一層深め、ご支援とご協力を賜りつつ進めていきます。よろしくお願いたします。